

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	教育委員会		
	課名	生涯学習課		
	係名	文化係		
	記入者		電話(内線)	634

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続	(2) 事務事業 の名称	市民文化センター改修事業		(3) 事業の 優先度	B
(4) 総合計画での位置づけ				(6) 事業主体	市	
① 事業の区分	主要事業			(7) 予算・ 財源等 の種別	事業の性質	普通建設事業費(ハード事業)
② 施策コード	44101	(総合計画掲載ページ)	125	会計区分	一般会計	
基本目標(政策)	4未来を担う子どもと地域を支える市民を育むまちづくり(教育・文化)			財源区分	市単独	
基本施策	4-4個性豊かな芸術文化の創造(芸術・文化)			予算科目	款 10	項 5 目 7
施策	①芸術文化を楽しむ機会の充実			予算書上の 事業名称	文化施設設備整備事業費	
施策内容	1文化施設の整備・管理・運営				(予算書 179 ページに掲載)	
(5) 事業期間	開始 平成 16 年 4 月から			(8) 事務分類		
	終了 年 月まで (力年)			根拠法令	結城市民文化センターの設置及び管理に関する条例	

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象(だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿(意図・どのような状態になるのか)
・市民文化センター「アクロス」 ・施設利用者(市民含む)	市民文化センターは開館以来25年が経過し、施設設備の老朽化からくる事故の危険性を回避する必要がある。また、技術的進歩からの遅れにより、新しい舞台芸術スタイルへの対応が困難になっているなど、劇場としての機能低下を解消するため、抜本的な施設改修が必要となっている。そのため、27年度に策定した施設改修計画を今後の改修・更新の指針とし、施設設備全体を計画的に改修・更新することにより、集客力や稼働率の向上に繋げ、本市の芸術・文化振興の拠点施設として、安定した会館運営ができる環境を整備する。
(2) 手段(事業内容・どのようなことを行うのか)	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)
○施設改修計画の検討及び立案 ○施設改修工事(設備機器更新・改修工事含む)の実施 ○音響設備等機器の更新(大規模な機器更新)	市民文化センターの開館時より、継続して使用するためにその都度改修工事や修繕を行ってきた。開館後25年が経過している中で、本事業の必要性和緊急性は増しているが、事業に要する経費が多額であるため、思ったような改修が行えず、他の自治体においても同様の状況が数多くみられ、自治体によっては閉館するケースも出ている。
(5) 事業をとりまく環境の変化(社会環境、市民ニーズ等)や市民・議会の要望、意見等とそれに対する対応	
市民の価値観やライフスタイルが急速に変化していく中で、文化活動施策に対する市民のニーズも多様化・複雑化してきており、活動の場や一流の舞台芸術の鑑賞機会の提供など、誰もが気軽に文化芸術を楽しむことができる環境整備が求められている。しかし、本市行政規模において、当該施設を後年にわたり維持管理するには相当の負担が生じるものであり、議会からも公共施設の維持管理に要する経費について懸念されている状況にある。よって、本事業では、施設の維持・改修計画及び運営方針を明確に定め、その中で利用者の安全性や利便性を確保するための改修を優先して実施する。	

3. 事業コスト

行政評価		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映							
実施計画													
● 予算内訳		実績額（千円）		当初予算額（千円）		計画額・見込額（千円）							
事業内容		27 年度		28 年度		29 年度		30 年度		31 年度			
(1) 事務事業費の コスト	事業費	委託料		8,512									
		工事費				289							
	合計		8,512		289								
	財源	国庫支出金 (千円)											
		県支出金 (千円)											
		地方債 (千円)											
		その他特定財源 (千円)											
		一般財源 (千円)		8,512		289							
合計 (千円)		8,512		289									
補助・起債制度名													

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）

指標の名称			単位	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）								
指標名	施設改修内容	目標値			駐車場区画線引替	施設・設備改修	施設・設備改修	施設・設備改修
		実績(見込)値			設備改修調査等実施設計			
		目標値						
		実績(見込)値						
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）								
指標名	施設・設備の改修率	目標値	%		44	46	48	50
		実績(見込)値		44				
		達成率		88.0 %	0.0 %			
		目標値						
		実績(見込)値						
		達成率		%	%			

5. 事業評価

(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。 施設・設備の中長期的な改修計画を作成した。				
(2) 項目別評価				
評価項目・客観的評価				理由
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	開館後25年が経過し、老朽化している施設・設備もあるため、安全かつ有効に利用するために早急な改修が必要である。
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	市の公共施設であるため、市が実施すべき事業である。
	手段の妥当性	B	どちらとも言えない	27年度に改修計画を利他慰安しているが、現実的かつ実効性のある内容でないため、改めて改修内容を見直す必要がある。
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	現状で市が支出できる予算内で、最大限の事業実施を図っているが、施設改修全体でみた場合、効率性が高いとは言い難い。
公平性	受益者の偏り	A	偏りは見られない	対象者に対して、概ね広く便益を提供している。
有効性	成果の向上	B	どちらとも言えない	限られた事業費の中で実施しているため、大幅な成果向上は見込めないが、着実に成果は上がっている。
進捗度	事業の進捗	B	どちらとも言えない	必要最低限の改修工事（修繕工事）であり、施設全体から見た場合、十分な事業進捗とは言い難い。
(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。 施設及び設備の早期改修を実施することが望ましいが、財政面からの課題が大きく、27年度に策定した改修計画も現実性・実効性に乏しいものであるため、内部で改めて当該改修計画を見直しを行い、優先順位を明確にしたなかで、改修を進めてることが肝要である。				
(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？ 改修計画の見直しや施設の運用方針を検討し、目標年次と改修内容を設定した中で効果的な改修を進められるよう、関係機関と協議を行うとともに、改修に要する事業財源の確保に努める。				

6. 事業の方向性判断

評価主体	28年度以降の事業の方向性	評価理由・根拠
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う	改善・改革しながら継続（成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減）	注）記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う	改善・改革しながら継続（成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減）	市民が、安全かつ快適に施設を利用できるように、昨年度、作成した改修計画を踏まえて、年度計画に基づいた、効率的な改修を実施していく。
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う		上記評価のとおり。